

PRAEVIDENTIA DAILY (4月23日)

昨日までの世界：ドルが弱含み

昨日は、前日と反対に、米株価や米長期債利回りが上昇したにも拘らず、ドルが全般的に軟調な展開となった。米中古住宅販売件数は459万件と市場予想(456万件)を若干上回ったが、前月(460万件)を下回っており、相場材料とはならなかった。ドル/円相場は日経平均株価の下落を眺め一時102.41円へ軟化する局面もみられたが、欧米時間にかけて持ち直し、結果として102円台半ばでの横ばい圏内となっている。豪ドルは特段の追加材料はない中、本日の豪CPI統計発表における上振れリスクを意識してか、豪ドル買いが優勢となり、対米ドル、対円で上昇、豪ドル/円は96円台に乗せてきている。ポンドも、英中長期債利回りの上昇が比較的大きかったことから上昇しており、対ドルでは一時1.6839ドルと年初来高値(4月17日の1.6847ドル)に迫る水準となっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	+0.00	+0.01	+0.00	-0.00	-0.00	-0.00	+0.4	-0.9	-1.8	-0.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.01	+0.00	+0.01	+0.02	+0.02	-0.00	+1.4	+0.4	-0.6	-0.04
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.2	+0.01	+0.02	+0.01	+0.05	+0.04	-0.00	+0.9	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.4	-0.00	+0.01	+0.01	+0.02	+0.02	-0.00	+0.4	+0.3	+0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.3	-0.03	-0.02	+0.01	+0.05	+0.04	-0.00	+0.4	+0.3	+0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.1	+0.01	+0.01	-0.00	+0.00	-0.00	-0.01	+0.4	-1.8	+0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：豪金融政策はCPIより失業率が重要

きょうの注目通貨：AUD↑、EUR↓、NZD↑、ZAR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中曾日銀副総裁発言	9:25			ややタカ派
豪1Q総合CPI・前年比	10:30	+2.7%	+3.2%	
同・刈込平均・前年比		+2.6%	+2.9%	
同・加重中央値・前年比		+2.6%	+2.9%	
中国4月HSBC製造業PMI・速報値	10:45	48.0	48.3	
フランス4月PMI製造業	16:00	52.1	51.9	
ドイツ4月PMI製造業	16:30	53.7	53.8	
ユーロ圏4月PMI製造業	17:00	53.0	53.0	
同・サービス業		52.2	52.5	
南ア3月総合CPI・前年比	17:00	+5.9%	+5.9%	インフレ目標上限は6%
BoE議事要旨	17:30			
カナダ2月小売売上高・除く自動車・前月比	21:30	+1.0%	+0.5%	
米3月新築住宅販売件数	23:00	44.0万件	45.0万件	
RBNZ金融政策決定	6:00	2.75%	3.00%	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

豪CPIは総合CPIが前年比+3.2%とRBAのインフレ目標レンジ(2-3%)を上抜けし、コアインフレ(刈り込み平均と加重中央値の平均)も+2.9%とレンジ上限ぎりぎりとなる見込みとなっている(下図を参照)。インフ

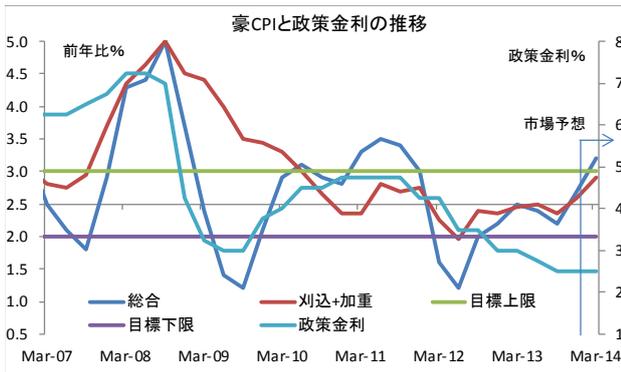
レ上昇が確認されると、これまでの良好な豪経済指標と合わせ、年内の利上げ開始期待を強め、発表に向けて豪ドル高バイアスがある。

但し、既に高いCPIが予想されていることから、予想程度に留まると発表後の利食い・反落リスクもある。当社は、RBAが今年後半の鉱業セクター投資の一服・大幅減少からくる景気への悪影響を見極める必要があること、またそれを相殺するために豪ドル安誘導したいと考えていることから、更なる豪ドル高に繋がりがかねない早期利上げは避けるとみている。また、豪州の政策金利を巡っては失業率の方が注目で、過去失業率がピークをつけて低下し始めてから数か月後に利上げが開始されている（下図を参照）。今回は確かに直近3月失業率が大幅に低下したものの、トレンド転換を示すものかまだ分からないため、RBAの金融政策スタンスがすぐにタカ派化することはないとみられる。

ユーロ圏では4月PMIが注目される。ユーロ圏景気回復を主導してきたドイツの景況感指数はピークアウト感が強まっており、特に先行きの見通しを示すZEW期待指数（ユーロ圏分）では3か月連続悪化しているにも拘らず、今回のPMIではドイツ分で小幅改善、ユーロ圏は横ばいが予想されており、予想比下振れリスクが高い。またこのところ独メディアを中心にECBの量的緩和検討に関する報道が流れ、市場が金融緩和期待を強めている面もあり、経済指標は下振れ時の反応（ユーロ安）の方が大きいだろう。

明日早朝発表のRBNZについては前回3月に続いて25bpsの利上げがコンセンサスとなっており、これまでのNZドル堅調の背景となっている。先行きについても、利上げ継続の必要性を繰り返すとみられNZドル下支え要因だが、同時にNZドル高懸念を強めるリスクがあり、発表後のNZドル反落に注意が必要だ。

ドル/円を巡っては、米新築住宅販売は若干の増加が予想されているが、米住宅関連指標は昨年以降改善一服感が出ており、米金融政策見通しを大きく変更するような材料とはなりにくい。他方、比較的タカ派の中曽日銀副総裁からは目先の追加緩和に消極的な発言が聞かれる可能性が高いことから、102円を挟んだ横ばい推移の見込みながら、どちらかというドル軟調・円強含みリスクが大きい。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641